

一般社団法人日本環境化学会

2019年度第1回理事会

日時：2019年5月22日（火） 13:00～14:30

場所：東京理科大学PORTA神楽坂6階第1会議室

議案

1号議案 英文誌の創刊承認の件

2号議案 2018年度事業報告および決算承認の件

3号議案 2019年度事業計画および予算案承認の件

その他

2019年1月11日の理事会において編集委員会から提案され、その後、会長により英文誌創刊検討委員会の委員長に高田秀重先生が指名されました。高田委員長により中野武先生、門上希和夫先生、大河内博先生、石塚真由美先生、中島大介先生、渡邊泉先生が委員に選ばれ、オブザーバーとして柴田会長、清家理事、橋本理事が加わりました(2019年5月19日時点)。以下のとおり報告し、委員会として英文誌 Environmental Monitoring and Contaminant Research (EMCR)の創刊をご承認くださいますようお願いいたします。

委員会の開催

- ・第1回委員会開催 2019年2月21日 17:00～19:00、Web会議
- ・第2回委員会開催 2019年3月13日 13:00～15:00 Web会議
- ・J-stage セミナー「ジャーナルのプレゼンス向上に向けて～実践事例の紹介」に参加
- ・第3回委員会開催 2019年4月17日 16:00～18:00 Web会議

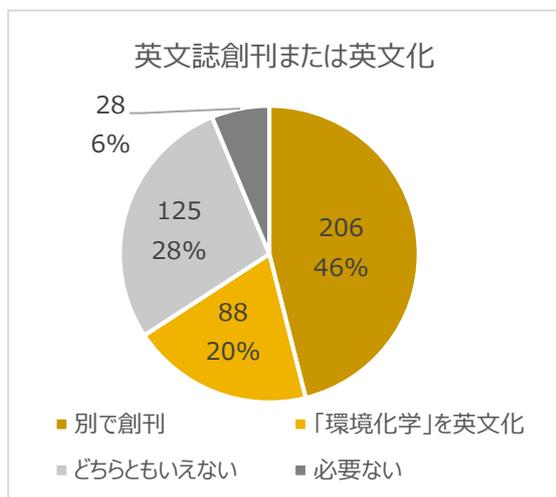
懸念事項と検討の結果

① 類似する英文ジャーナルが乱立する中で、当会が英文誌を創刊する意義はあるのか。

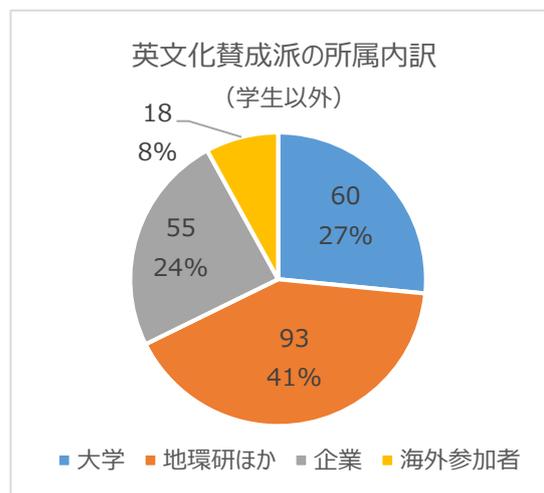
近年、著名な英文誌はモニタリング色の強い論文を reject する傾向がある。創刊する英文誌はそのような論文の受け皿となり、このジャーナルを見ると世界のモニタリングデータや汚染の状況が見えるようなジャーナルとしたい。また、速報性も重視する。一方でモニタリング結果の公表にとどまらず、それを基にしたサイエンスを目指す。特に、環境化学討論会で発表されているような内容の論文を国際的に発信したい。(創刊ジャーナルの詳細については別紙①参照。「環境化学」への海外からのアクセス数も参考までに別紙②でご確認ください。)

② 当会の刊行する英文誌に需要はあるのか、会員は英文誌の創刊を必要としているのか。

第28回環境化学討論会の参加登録サイトで英文誌創刊についてアンケート(447件、多くは討論会での発表者)をとった結果、英文誌を「環境化学」と別に創刊を望む声は46%、「環境化学」を英文化するのが良いとの回答は20%で、66%の参加者が英文誌の発行に賛成であることがわかった。特徴的な点は、賛成した66%の方々の所属割合で、地環研の研究者が多かったことである。



英文



誌の創刊に賛成の方々（294名）の中で、実際に投稿を検討して頂けるかの質問には、139名が「投稿を検討したい」を選択し、65名は「サポートがあれば投稿したい」とのことであった。英文誌創刊または英文化について「どちらともいえない」との回答者の中にも、創刊されれば投稿を検討したいと答えた方が21件あった。

賛成（294名）年代内訳	20代	77名			
	30代	63名			
	40代	82名			
	50代	46名			
	60代	26名			
			反対（28名）	30代	8名
			年代内訳	40代	8名
				50代	8名
				60代	4名

アンケートの自由記入の部分では、海外にたくさんのジャーナルがある中で、英文誌は不要だ、との意見もあったが、若手の中には「環境化学討論会は、英語セッションもあり、非常に国際化に力を入れている印象がある。その流れに乗って、「環境化学」も英語化を期待する。」とか「環境化学が英文誌となりIFを取得できれば投稿したい。現状では投稿することが出来ず、このことが環境化学会の発展を妨げていると感じる」との意見もあり、5年、10年後に学会が、学会としての役割を果たしていくには、やはり国際化は必要であると感じる。学会としてその期待に応える必要があるのではないかと考える。

一方、本学会と環境省や自治体との関係を考えると環境化学の完全英語化は本学会の社会貢献を損なう点で問題が生じる。日本語での有害化学物質に関する情報発信は行政的なニーズが大きく、環境化学は日本語で刊行を続けることが必要だと考えられる。

③ 英文誌を創刊し、維持していくことが費用の面で可能なのか。

英文誌の創刊、維持には費用がかかる。（別紙③④見積書を参照）年間の刊行費約300万円をどのようにまかなうのかであるが、来年度の「環境化学」の電子ジャーナル化で削減できる経費約150万と、残りは学会の剰余金を使用し5年間は投稿料、掲載料は徴収せず学会負担で刊行したい。それ以降の徴収については、状況を見ての判断とはなるが、基本的に投稿料を1報10万円徴収（20報で200万円）、残りの100万円を学会の国際活動費という捉え方で負担することも考える。これまでも国際セッションの外国研究者招聘費として100万円支出した経緯もある。英文誌のホームページとデータベースについてはできる限りバナーなどの広告費でまかなえるよう努力したい。また、今年の9月には科研費「国際情報発信強化B」への応募を予定している。

以上、英文誌創刊検討員会で検討を重ね、理事会へ英文誌創刊をご提案させて頂きたくこととしました。ご承諾のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

1. 登録会員数(2019年3月31日付)

個人会員	676名※
学生会員	130名※
シニア会員	50名※
海外会員	3名※
名誉会員	2名※
賛助会員	57法人
公益会員A	16法人
公益会員B	21法人

※議決権を有する会員(合計861名)

2. 総会

2018年5月23日(水) 沖縄県市町村自治会館にて平成30年度総会を開催

3. 理事会

第1回理事会 (2018年4月27日)

第2回理事会 (2019年1月11日)

電子理事会 (2018年11月13日～19日) 選挙管理委員の承認の件

電子理事会 (2019年3月5日～3月11日) 学会賞候補者の承認の件

・英文誌創刊検討委員会の設置

第2回理事会において編集委員会から提案のあった英文誌の創刊について「英文誌創刊検討委員会」を設置し、検討することとなった。後日、会長により、委員長として高田秀重理事が指名された。

4. 幹事会

第2回幹事会 (2019年1月11日)

5. 事務局

- ・総会、理事会、幹事会の開催
- ・学会事務の総括運営
- ・学会経理関係運営
- ・メールニュースの配信
- ・ホームページの維持管理
- ・評議員選挙、役員選挙関連事務
- ・討論会事務局業務
- ・英文誌創刊検討委員会事務局業務

6. 討論会実行委員会

第27回環境化学討論会実行委員会

・第27回環境化学討論会(沖縄)開催

(平成30年5月22日～5月25日 沖縄県市町村自治会館にて)

演題数334題、参加者547名

第28回環境化学討論会実行委員会

・準備会合 2018年6月1日(会場下見)

・準備会合 2018年10月22日(交流会会場下見)

・第1回実行委員会 2018年11月2日

7. 幹事会活動

➤ 調査研究担当

各調査部会での活動

- 講演会企画部会（詳細報告は「環境化学」29-1(3月号)をご覧ください）
 - ・2018年12月6日 第60回講演会「海洋プラスチック汚染の環境化学」
会場：機械振興会館ホール 参加者数：135名
- 編集部会
 - ・「環境化学」の発刊、第28巻第2号～第29巻第1号 発行部数各1000部
2018年 論文投稿数：14、論文掲載数：14
 - ・2018年12月19日 編集委員会開催（東京文化会館応接室1）
 - ・「環境化学」の冊子廃止と完全電子ジャーナル化（OA化）の検討
理事会議事録 http://www.j-ec.or.jp/info/file/rijikai30_2.pdf
 - ・第28回環境化学討論会参加登録サイトにて、参加者へのアンケートを実施
- 広報・渉外部会
 - ・各企画の広報活動、報道機関や記者クラブへの案内
- 表彰部会
 - 2018年表彰式の举行、及び2019年表彰者選考
- 国際企画部会
 - ・討論会での国際セッション、自由集会の開催
 - ・PACCON2019 への参加
 - ・タイ化学会との MoU による連携強化
- 高校環境化学賞部会
 - ・第13回高校環境化学賞（松居記念賞）授賞式、受賞校のポスター発表と二次審査実施
 - ・第14回高校環境化学賞（松居記念賞）の募集と選考
- 学術図書出版部会
 - ・講談社ブルーバックス（日本環境化学会編著）発刊準備
 - ・JST研究開発の俯瞰報告書2019年（環境・エネルギー分野）作成協力
<https://www.jst.go.jp/crds/report/report02/CRDS-FY2018-FR-01.html>
- 地区担当各部会（詳細報告は「環境化学」29-1(3月号)をご覧ください）
 - ・九州地区部会（2018年9月21日、22日）
「今と10年後の環境研究を考える学術交流会in九州」
 - ・中部地区部会（2018年11月16日）
「中部環境化学セミナーin名城大学」
 - ・中四国地区部会（2018年12月8日）
「第2回ケミカルハザードシンポジウムin愛媛大学」
 - ・関西地区部会（2019年1月28日）
廃棄物資源循環学会関西支部・日本環境化学会関西地区部会連携セミナー
「徹底解説！ ダイオキシンの生体代謝をめぐる新たな知見と環境制御・計測技術の現在
一人と化学物質は共存（棲み分け）できるのか？」

8. 選挙管理委員会

- ・2019,2020年度役員選挙の実施
- ・2019,2020年度評議員選挙の実施

9. 英文誌創刊検討委員会

- ・第1回委員会開催 2019年2月21日 17:00～19:00、Web会議
- ・第2回委員会開催 2019年3月13日 13:00～15:00 Web会議
- ・J-stageセミナー「ジャーナルのプレゼンス向上に向けて～実践事例の紹介」に参加

平成30年度 収支報告書
平成30年4月1日から平成31年3月31日

一般社団法人 日本環境化学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差異(決算-予算)	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 会費収入				11,324,000
個人会員会費収入	5,600,000	5,168,000	△ 432,000	646名分(延人数)
学生会員会費収入	380,000	485,000	105,000	97名
シニア会員会費収入	120,000	175,000	55,000	35名分
海外会員会費収入	24,000	36,000	12,000	3名
賛助会員会費収入	4,560,000	4,560,000	0	57社
公益会員A会費収入	450,000	480,000	30,000	16団体
公益会員B会費収入	420,000	420,000	0	21団体
② 事業収入				
学会誌別刷売上収入	100,000	0	△ 100,000	
学会誌広告収入	691,200	928,800	237,600	7社、裏表紙1社 単発等3社
討論会収入	14,400,000	15,132,755	732,755	第27回討論会
講演会参加費収入	500,000	360,000	△ 140,000	第60回
講演会予稿集広告・展示等収入	200,000	95,040	△ 104,960	
③ 著作権収入				
FAX複写著作権収入	10,000	8,802	△ 1,198	独)科学技術振興機構
④ 雑収入				
受取利息収入	12,000	7,744	△ 4,256	
雑収入	60,000	64,800	4,800	既刊本など
事業活動収入計	27,527,200	27,921,941	394,741	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
学会誌刊行費支出	1,800,000	1,508,760	△ 291,240	印刷・製本費
学会誌発送支出	380,000	471,145	91,145	
学会誌刊行運営費支出	160,000	187,219	27,219	投稿システム費、査読礼、切手など
第27回討論会支出	13,760,000	11,927,970	△ 1,832,030	
第28回討論会支出	0	305,966	305,966	
講演会印刷物支出	220,000	38,653	△ 181,347	第60回
講演会運営費支出	250,000	324,676	74,676	
講演会謝金・旅費交通費支出	230,000	445,362	215,362	
表彰関係費支出	100,000	110,812	10,812	
高校環境化学賞支出	500,000	520,353	20,353	賞金・交通費補助・参加賞
学術図書刊行費支出	300,000	0	△ 300,000	
部会活動費支出	1,000,000	744,564	△ 255,436	5部会実績
国際交流費支出	600,000	626,757	26,757	タイPACOON参加旅費等
② 管理費支出				
消耗・備品費支出	300,000	221,309	△ 78,691	
修繕費支出	260,000	246,348	△ 13,652	ソフト・LAN保守
通信運搬費支出	300,000	254,550	△ 45,450	
旅費交通費支出	800,000	958,375	158,375	出張費、通勤費、理事会交通費など
会議費支出	170,000	139,115	△ 30,885	幹事会・理事会
事務所費支出	1,330,000	1,322,705	△ 7,295	家賃・光熱費・火災保険
印刷製本費支出	150,000	86,400	△ 63,600	封筒1種印刷
委託手数料支出	259,200	259,200	0	会計コンサルト料
福利厚生費支出	175,000	144,000	△ 31,000	
法定福利費支出	520,000	516,545	△ 3,455	社会保険料会社負担分
人件費支出	5,000,000	4,987,075	△ 12,925	常勤1名 ハ→2名
租税公課支出	360,000	302,100	△ 57,900	消費税増・印紙税
雑支出	120,000	181,420	61,420	手数料
事業活動支出計	29,044,200	26,831,379	△ 2,212,821	
事業活動収支差額	△ 1,517,000	1,090,562	2,607,562	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入合計	0	0	0	
2. 投資活動支出	0	0	0	
投資活動支出合計	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
財務活動収入合計	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動支出合計	0	0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	△ 1,517,000	1,090,562	2,607,562	
前期繰越収支差額	46,949,487	46,949,487	0	
次期繰越収支差額	45,432,487	48,040,049	2,607,562	

1. 登録会員数(2019年5月10日現在)

個人会員	680名※	(2018年4月25日現在 689名)
学生会員	141名※	(2018年4月25日現在 124名)
シニア会員	49名※	(2018年4月25日現在 37名)
海外会員	2名※	(2018年4月25日現在 2名)
名誉会員	2名※	(2018年4月25日現在 2名)
賛助会員	54法人	(2018年4月25日現在 57法人)
公益会員A	16法人	(2018年4月25日現在 15法人)
公益会員B	19法人	(2018年4月25日現在 21法人)
※議決権を有する会員(合計874名)		※議決権を有する会員(合計854名)

2018年度入会者93名(うち学生75名)

2019年度入会者100名(うち学生58名)

2. 総会

日時:2019年6月13日(木) 9:20~9:50 ※第28回環境化学討論会2日目

場所:埼玉会館 小ホール (A会場)

3. 理事会

第1回理事会 (2019年5月22日、理窓会会議室にて開催)

第2回理事会 (2019年6月13日(木)12:25~13:25、埼玉会館6C会議室予定)

4. 評議員会・幹事会

評議員会・幹事会(2019年5月22日、理窓会会議室にて開催)

5. 事務局

- ・総会、理事会、評議員会、幹事会の開催
- ・学会事務の総括運営
- ・学会経理関係運営
- ・メールニュースの配信
- ・ホームページの維持管理、リニューアル
- ・討論会事務局業務
- ・英文誌創刊検討委員会事務局業務

6. 討論会実行委員会

第28回環境化学討論会(埼玉)開催

会期:2019年6月12日(水)~6月14日(金)

会場:埼玉会館

第29回環境化学討論会実行委員会立ち上げ

(実行委員長:摂南大学 太田壮一先生)

第30回環境化学討論会の開催地および実行委員長の決定

7. 幹事会活動

- 調査研究担当
各調査部会での活動
- 講演会企画部会
 - ・2019年9月6日(金) JAIMAジョイントシンポジウム開催
「マイクロプラスチックの計測と環境影響(仮)」(幕張メッセコンベンションホールB)

- ・2019年9月18日(水) 第61回日本環境化学会講演会
「コメ中無機ヒ素をめぐる諸問題(仮)」(日比谷コンベンションホール)

➤ 編集部会

- ・「環境化学」の発刊、第29巻第2号～第30巻第1号 発行部数各1000部
- ・「環境化学」の冊子廃止と完全電子ジャーナル化(OA化)の準備
- ・第28回討論会参加者に実施したアンケートの分析と活用
- ・編集委員会の開催

➤ 広報・渉外部会

- 各企画の広報活動、報道機関や記者クラブへの案内

➤ 表彰部会

- 2019年表彰式の挙行及び2020年表彰者選考

➤ 国際企画部会

- ・討論会での国際セッション、自由集会の開催
- ・DIOXIN2019 への協力

➤ 高校環境化学賞部会

- ・第14回高校環境化学賞の二次審査と賞の授与(2019年6月13日第28回討論会との同時開催)
- ・第15回高校環境化学賞の募集と選考

➤ 学術図書出版部会

- 講談社からブルーバックス「地球をめぐる不都合な物質 循環する化学物質 日本環境化学会編著」を出版 6月予定

➤ 地区担当各部会

- ・各地区部会での活動(懇談会、勉強会、講演会等の企画)
- ・各地区での学会広報活動協力

8. 英文誌創刊検討委員会

- ・第3回委員会開催 2019年4月17日16:00～18:00 Web会議
- ・理事会への報告と議案提出 2019年5月22日
- ・第4回委員会開催予定 2019年6月

2019年度 収支予算書(案)
2019年4月1日から2020年3月31日

一般社団法人 日本環境化学会

(予算-前年予算)

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 会費収入	11,399,000	11,554,000		
個人会員会費収入	5,500,000	5,600,000	△ 100,000	660名(延人数)見込
学生会員会費収入	450,000	380,000	70,000	90名見込
シニア会員会費収入	245,000	120,000	125,000	49名見込
海外会員会費収入	24,000	24,000	0	2名見込
賛助会員会費収入	4,320,000	4,560,000	△ 240,000	54社
公益会員A会費収入	480,000	450,000	30,000	15団体
公益会員B会費収入	380,000	420,000	△ 40,000	19団体
② 事業収入				
学会誌別刷売上収入	0	100,000	△ 100,000	50部 3件見込
学会誌広告収入	800,000	691,200	108,800	10社見込
討論会収入	13,000,000	14,400,000	△ 1,400,000	
講演会参加費収入	360,000	500,000	△ 140,000	
講演会予稿集広告・展示収入	66,000	200,000	△ 134,000	
③ 著作権収入				
FAX複写著作権	8,000	10,000	△ 2,000	独)科学技術振興機構
④ 雑収入				
助成金	800,000	0	800,000	セコム科学技術振興財団(高校生)
受取利息収入	7,000	12,000	△ 5,000	
雑収入	60,000	60,000	0	既刊本
事業活動収入計	26,500,000	27,527,200	△ 1,027,200	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出				
学会誌刊行費支出	1,500,000	1,800,000	△ 300,000	印刷製本
学会誌発送支出	470,000	380,000	90,000	封入、国内外発送
学会誌刊行運営費支出	180,000	160,000	20,000	事務、図書カード、切手、投稿システム
英文誌創刊準備費支出	3,000,000	0	3,000,000	EMCR創刊、ホームページ構築
討論会支出	12,000,000	13,760,000	△ 1,760,000	
講演会印刷物支出	30,000	220,000	△ 190,000	
講演会運営費支出	155,000	250,000	△ 95,000	会場費、通信費、雑費など
講演会謝金・旅費交通費支出	200,000	230,000	△ 30,000	
表彰関係費支出	200,000	100,000	100,000	賞状ケース 筆耕
高校環境化学賞支出	400,000	500,000	△ 100,000	賞金・交通費・筆耕・賞状入、
学術図書刊行費支出	300,000	300,000	0	ブルーバックス買い取り分
部会活動費支出	1,000,000	1,000,000	0	調査研究及び地区担当の各部会
国際交流費(DIOXIN)支出	2,000,000	600,000	1,400,000	DIOXIN2019共催?
② 管理費支出				
消耗・備品費支出	220,000	300,000	△ 80,000	ホストPC・事務用品含
修繕費支出	500,000	260,000	240,000	PC・ソフ・LAN・HP保守
通信運搬費支出	250,000	300,000	△ 50,000	
旅費交通費支出	950,000	800,000	150,000	理事会・通勤費他
会議費支出	280,000	170,000	110,000	幹事会・理事会 評議員会
事務所費支出	1,330,000	1,330,000	0	家賃・光熱費・保険・更新料
印刷製本費支出	86,000	150,000	△ 64,000	封筒2種印刷
委託手数料支出	259,200	259,200	0	会計コンサルタント料
福利厚生費支出	175,000	175,000	0	共済金、厚生費
法定福利費支出	520,000	520,000	0	社会保険料会社負担分
人件費支出	5,000,000	5,000,000	0	常勤1名 パート2名 討論会事務
租税公課支出	800,000	360,000	440,000	消費税・印紙税 滞納市県民税
雑支出	180,000	120,000	60,000	
事業活動支出計	31,985,200	29,044,200	2,941,000	
事業活動収支差額	△ 5,485,200	△ 1,517,000	△ 3,968,200	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	0	0	0	
投資活動収入合計	0	0	0	
2. 投資活動支出	0	0	0	
投資活動支出合計	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
財務活動収入合計	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動支出合計	0	0	0	
IV 予備費支出				
当期収支差額	△ 5,485,200	△ 1,517,000	△ 3,968,200	
前期繰越収支差額	48,040,049	46,949,487	1,090,562	
次期繰越収支差額	42,554,849	45,432,487	△ 2,877,638	